

自助と共助を兼ね備えた人間力の育成に 欠かせない放課後の遊び。

「新しいふれあい社会の創造」を掲げるさわやか福祉財団にとって、未来の担い手である子どもたちが置かれている実態を把握することは活動の柱のひとつ。社会や状況を生き抜く力としての人間力を育てるためにはどうすればいいのか。放課後の子どもたちの主体的な遊びの重要性を確認する調査が行われた。

人間力や共助の力が衰えつつある子どもたち。

近年、日本の子どもたちの「生きる力」が衰えつつあると盛んに言われている。生きる力とは、ものごとに取り組む意欲や積極性、困難な状況に耐えて乗り越える力、他者への共感性などであろう。人間が社会の中で生きていくために必要な力と考えれば、生きる力とは、すなわち「人間力」ということになる。

「私たちは、その人間力を、自分で生きていく力としての『自助』と、他者と助け合って生きていく力としての『共助』の二つの観点で考え、なかでも自分から積極的に他者と接点を持ちながら築いていく共助の力を育てるには

どうすればいいかに着目しました」と語るのは、公益財団法人 さわやか福祉財団で「子どもと交わろうプロジェクト」のプロジェクトリーダーを務める有馬正史さん。未来の担い手である子どもたちから人間力が失われつつあるということは憂慮すべきことだが、有馬さんは、「少子化、核家族化、経済情勢の悪化、教育における知識偏重化などの社会環境の変化の中で、結局、大人をはじめとする社会全体が、そうした力を育てるための場や機会を子どもたちに提供していないから」と話す。

その問題解決のアプローチとして有馬さんたちが注目したのが、「放課後子ども教室」の存在である。放課後子ども教室は、文部科学省が2007年度から進めている事業で、市町村が実施主体となり、小学校の余裕教室などを活用して、地域の多様な方々の参画を得て、子どもたちが学習・スポーツ・文化活動・交流活動などに取り組むというもの。2010年度は、全国9,280ヵ所で開催されている。この放課後子ども教室で繰り返しひろげられる子どもたちの主体的な「遊び」の中に、人間力(自助や共助の力)を育てる機能があるのではないかと考えて、有馬さんたちは調査研究を実施した。

放課後の遊びが子どもの人間力を育む。

調査研究は早稲田大学文学学術院増山均研究室の協力のもと、東京都および隣接する4県から、子どもの主体的な遊びを重視したプログラムに年間200日以上取り組んでいる放課後子ども教室を設置する小学校を1校ずつ選び、放課後子ども教室への参加・不参加者を問わず全児童(5校合計2,939名)を対象に、アンケート調査を行った。その結果、いくつかの興味深いデータが得られたと、有馬さんは言う。

「まず、もっともよくする遊びが携帯型ゲームであり、近くの公園や家の中で同学年の友だち3〜5人で遊んでいるという遊びの形態が浮かび上がりました。一方、放課後子ども教室への参加の有無で比較すると、放課後子ども教室へ参加している子どもたちのほうが、縄跳び・すべり台・ブランコなどの外遊びや、あやとり・折り紙などの伝承遊びの割合が増え、携帯型ゲームが減る傾向にあること、同学年や異学年を含めた新しい友だちができやすいことなどがわかりました。さらに、子どもたちにとって放課後子ども教室は、自由に、いろいろな遊びができて楽しい居場所になっていました」

この調査から、子どもの生活にたっぷり遊びの時間を保証することの大切さや、放課後子ども教室が子どもの遊びの内容を豊かにし、また、子どもの人間関係を豊かにする貴重な場を提供しており、子どもたちの人間力を育

担当者より



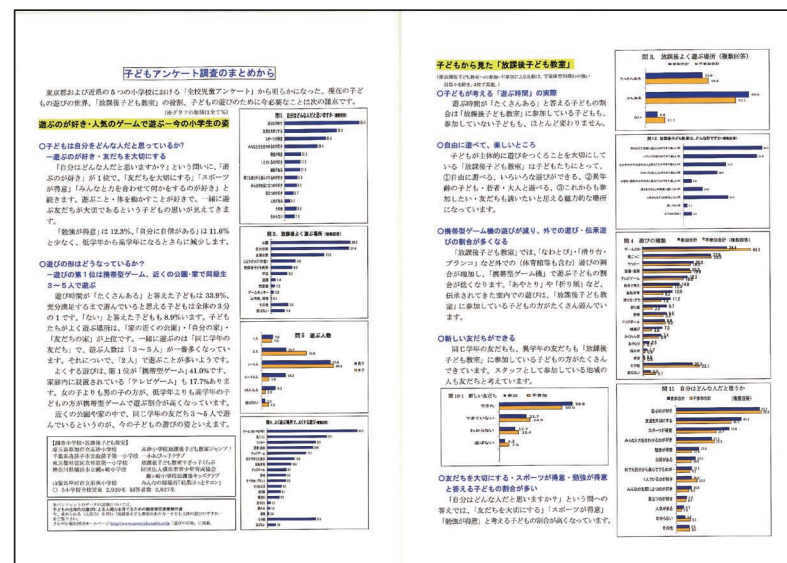
子どもたちの人間力を育むための研究といういいチャンスを受けました。
公益財団法人 さわやか福祉財団
子どもと交わろうプロジェクト
プロジェクトリーダー
有馬正史さん

昨年度の「子どもが育つ放課後の居場所づくりフォーラム」に続いて、AJOSCから支援をいただき、感謝しています。今回の調査で、現在の学校の状況と子どもたちの実際の育ちの関連性などの課題も出てきたので、今後も子どもたちの人間力育成のための研究を継続したいと考えています。

む可能性を持っていることなどが見えてきた。有馬さんたちのプロジェクトチームは、この調査をもとに「子どもたちの人間力を豊かにする放課後の生活づくりにむけて」という6項目からなる提言を含め、「『人間力』を育む『放課後子ども教室』のあり方」と題する報告書をまとめた。「放課後子ども教室が、学校の宿題などをやる場所になりつつあるのも事実。それでは詰め込み教育の延長になってしまいます。あくまでも放課後は、人間力(自助や共助の力)を育てるための遊びの場であってほしいと思います」と、有馬さん。子どもたちから遊びが失われることだけは、あってはならないことだろう。



完成した報告書



アンケート調査では、いくつかの興味深いデータが得られた



全国9,280ヵ所で開催されている「放課後子ども教室」